

高齢者フレンドリーな 長寿社会にむけて



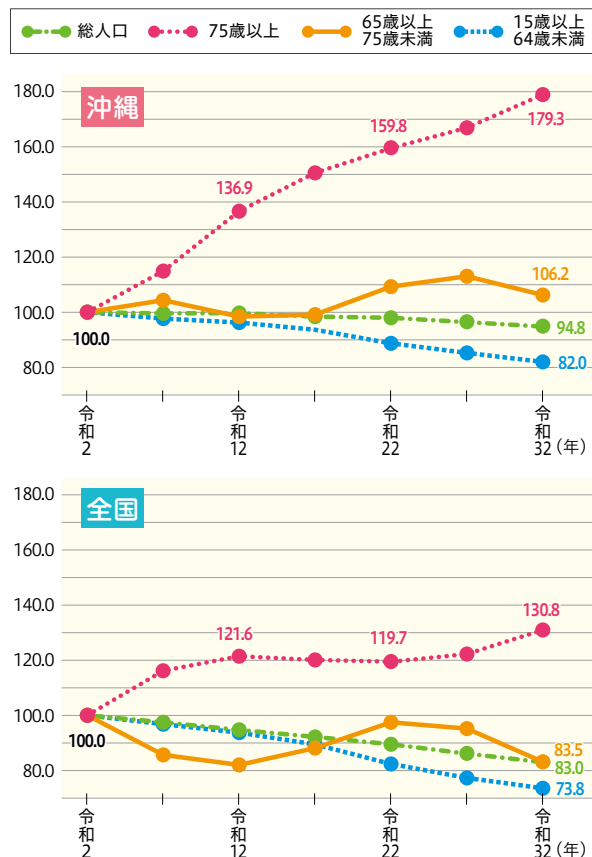
「沖縄県の高齢化の現状」

沖縄県の65歳以上の高齢者人口は、35・3万人（令和6年現在）で、高齢化率は23・8％となっています。2050年（令和32年）には46・8万人、高齢化率は33・6％となり、県民の3人に1人が高齢者となることが見込まれています。また、沖縄県は75歳以上人口が全国一高い伸び率で増加する一方で、働き盛り世代

（15歳～64歳）は約20％減少することが見込まれ、今後、社会は大きく変化していきます。

急速な高齢化に伴って認知症や軽度認知障害（MCI）も増加しており、その合計人数は全国で約1,000万人（令和4年時点）、高齢者の3・6人に1人が認知症またはその予備軍と言われています。

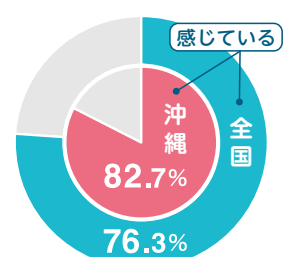
■年齢区分別人口の推計（令和2年を100としたとき）



「高齢者が望む暮らし」

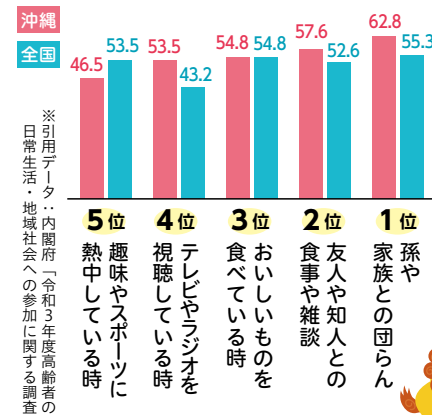
令和6年度に実施した「高齢者の生活状況調査」では、生きがいを感じている高齢者の割合は全国平均より高く、「孫や家族との団らん」、「友人や知人との食事や雑談」など人との交流に生きがいを感じていました。また、身体が弱ってきた際は「今の住居で居宅介護サービスを受けながら暮らし続ける」ことを希望する割合が高いなど、人との交流が高齢者の生きがいと強く結びつき、住み慣れた地域や自宅で可能な限り自立した生活を送りたいと望んでいました。加齢に伴う心身の機能の低下により、これまで楽しんできた買い物や外食、趣味など外出の機会や望む暮らしを少しずつあきらめ、徐々に社会とのつながりが希薄となる高齢者も多くいる一方で、誰かの役に立ちたい、誰かを支えたいと社会貢献や就労意欲のある高齢者も少なくありません。

Q 生きがいを感じていますか？



沖縄県は全国平均より「生きがいを十分感じている・多少感じている」と答えた割合が高めでした。

Q 生きがいを感ずる時は？（複数回答）



沖縄では「人との交流」が、高齢者の生きがいと強く結びついているんだね～

「高齢者フレンドリー社会」

高齢者限定のeスポーツ大会や認知症の方がホールスタッフとして働くレストラン、終末期の家族旅行など、身体機能の低下や認知症があっても使いやすい多様なサービスや、高齢者が培ってきた豊かな社会経験やスキルを活かした就労や社会参加の場など、いろいろな選択肢がある豊かな社会が広がればいいと思いませんか？

県ではすべての高齢者にとって使いやすいサービス、参加しやすい活動の場など多様な選択肢があり、心身の機能が低下しても望む生活ができる限り続けることができる「高齢者フレンドリー社会」づくりを推進しています。今ある制度や分野の枠

を超え、市町村、地域包括支援センター、民間事業者、地域団体などが共に高齢者の生活課題やニーズなどの理解を深め、連携・協働するための広域的なプラットフォーム（ツドレバ）を構築し、高齢者が使いやすいサービスや活動、就労の場の創出などの伴走支援を進めています。参加事業者募集の詳細などは「ツドレバ」の専用ホームページを参照ください。

「今の意識が変われば、未来の景色が変わる」

高齢者がいきいきと生きがい・やりがいを感じ希望を持って暮らせる地域づくりは、すべての人にも優しいまちへとつながっていきます。

高齢化に伴い認知症になる方も増えていきます。認知症は誰もがなりうる病気であり、認知症になつてからも一人一人できること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間となつながら、希望を持って暮らし続けることができる「新しい認知症観」という考えが示されています。

県では「今の意識が変われば、未来の景色が変わる」をキーワードに、「高齢者フレンドリー社会」、「認知症バリアフリー社会」の構築に取り組んでいます。誰もがお互いを尊重し共に支えあう、豊かな地域づくりのために、この機会にぜひイベントに参加してみませんか。

関連サイト



高齢者フレンドリー社会をつなげるプラットフォーム

イベント情報



参加申込
9月12日(金) 15時まで



問い合わせ 地域包括ケア推進課 電話：098-894-2152

